

岡山県立図書館見学記



学校図書館支援コーナー



雑誌用書庫

- ・平日で休日に比べるとずっと人が少ない状態だったようですが、休日の静岡県立より活気があると感じました。
- ・レファレンスをしている人も多くいました。聞きやすい雰囲気があるようでした。
- ・資料は市町村立図書館に良いようなものも多かったです。
- ・県立学校との宅配ルートが整備されているのはいいなと思いました。
- ・館内が明るく活気がありました。人が来やすいのは所蔵資料にもよると思いますが、それだけではないと思うのでその理由をよく考えたいです。

(M)

- ・段差のない床、点字ブロックなどが整備されている。児童書コーナーは子ども用の本棚使用。
- ・県庁の目の前に所在しており、バス停が建物の前にあって便利。駐車場もある。
- ・分な書庫スペースがある。貴重書庫も設置されていた。雑誌は自動書庫。
- ・市町村立図書館への支援用スペースが駐車場と隣接して設けられている。
- ・CDの棚が2カ所に、健康医療関連の本が4カ所に分かれて置いてあったのは「？」

(N)

- ・書庫は十分なスペースがあり、所蔵数も静岡県立より遥かに多い。やはり、レベルの高いサービスは、十分な数の資料やその所蔵を可能にする書庫スペースがあつてこそ、なのだと感じた。
- ・見学の申し込みが多いと思われそうですが、案内するためのマニュアルなどは作られているのでしょうか。

(Y)

- ・閲覧室のそこここに、長テーブルではなくキャレル風の一人用スペースがあり、落ち着いて研究できそう。個に重きを置く感じが良かった。

- ・並んでいる本は市立図書館風で、これなら人もいっぱい来たらうなあ、と思った。
- ・ガラスで区切られた児童書の研究室は、ゆとりがあって配架が見やすかった。これは、あくまでスペースの問題であり、静岡も新館ができれば今の子ども図書研究室ももっと使い勝手がよくなるだろうと思う。
- ・静岡でもバリアフリーその他の配慮は当たり前のように取り入れられるだろうと思った。
- ・新しい図書館を作る際には、市民との密な合意形成が大事。それは、城主(市長)がそもそも図書館に関心があり、城代(財政その他)も含めて図書館に理解があればこそ。城普請(準備室)が明確なイメージを描いて初めて、市民の声もよい形にまとめられる。静岡の場合も、キーパーソンに対するアプローチの仕方を工夫しないとなあ、と思う。
- ・今回の見学ツアーで痛感したのは、静岡県立のレベルの高さだった。このレベルは、一人の秀でた人間が引っ張るのではなく、優れた司書が複数在籍することで、「層」となって厚みがあるところが強みだと思った。なにより空気感が違う。
- ・よりよい図書館を作るという観点から、県立・市立を問わず取り入れたいところを吟味して、唯一無二の県立図書館を目指したいと思った。

(K)